



研究所だより

那覇市立教育研究所



風そよぐ5月



那覇市金城 3-5-3

Tel 891-3441 Fax 857-8681

naha-c@naha-c.nahaken-okn.ed.jp

所長 田中 浩三

学級経営の基礎・基本

所長 田中 浩三

学級経営における「基礎・基本」があるとしたら、それは学級で毎日行われる「やるべきこと・ルール」等が確実に定着することではないでしょうか。例えばそれは、朝登校後にすぐやるべきことから始まり、日直や係の仕事、朝の活動、朝の会、学習中のルール(発表の仕方、聞き方...)、給食や清掃時間の過ごし方、ロッカー等片づけ方;等々、授業以外の全てに及んでいきます。

一例として、「給食時間の過ごし方」について具体的な「やるべきこと・ルール」を挙げると次のようなことが考えられます。

- ① 当番のやること (手際よく早く準備できるように)
 - 四時間目終わるとすぐに (△分以内) 着替える → 並ぶ → 移動する → 運ぶ → 給食準備 → 配膳
- ② 当番以外のやること (当番でない子が何をすればよいかわめておかないと騒然となる)
 - 準備 (手洗い、グループづくり、歯磨き準備等) → 読書が自由帳に絵を書き、静かに待つ)
- ③ 食べているとき「たのしく食べる」の中でも食べるのが大事 (十分間または食べ終わるまでは静かに)
- ④ 定着を図るルールを四月当初に全員で確認・定着するまで「できたらほめる」等を中心に繰り返して指導

多くの学級担任はこのようなルール等を四月当初より子ども達と一緒にしっかりと確認・約束をし、実践しているのだと思います。これらのことを定着させることは秩序ある学級づくりにつながり、さらには学級の目標としている「明るい学級」や「たのしい学級」づくりにもつながるからです。

もし、やるべきことを後回しにしたりきめ細かな指導ができなかったりしている場合には、今ある学級の状態を見つめ直し、再度指導に挑戦する必要があります。

大切なことは、どの子にも「何を、どのように進めるのかを明確に示し、継続的に指導する」「ぶれない指導をする」「教師が率先垂範して行動する」等を着実に実践することだと思います。



「テーマ検討会」「項立て検討会」終わる

研究がスタートし、一ヶ月が経った研究員の研究テーマと声を紹介します。

幼児の心身の健康を育むための
食育活動
～教材や環境構成の工夫～



金城 恵

自分の育てたい幼児の姿は一体どんな姿なのか、たくさんの指導助言を頂けたことで整理しやすくなり、少し前に進み出せそうな気がしました。

自己肯定感を高め、思いやりの心を育てる指導の工夫
～自他のよさに気づき、認め合う対話を通して～



上原 学

5月は研究内容に入っていきます。しっかりと授業を見据えて、題材さがしや、理論研を進めていきます。

確かな読みの力を身につける説明文の学習指導の工夫
～要約指導と文章構成の図式化を通して～



奥間ナリ子

私がぶれていた部分はやはり指摘があり、再検討が必要です。いただいた指導助言を参考に研究内容を再構築していきたいと思っています。



この研究をすすめて、半年後には学校現場で還元できる研究内容にしていきたいと思っています。



新垣 真

「伝え合う力」を高める「話す・聞く」学習指導の工夫
～言語活動にKJ法等を取り入れた参加型学習を通して～



国仲きよみ
指導主事



「テーマ検討会」の様子



田中浩三所長

授業づくり講座 I

4月25日(水) 田中浩三所長による「学級経営の充実に向けてのポイント」についての講座が開催されました。

那覇市内の小・中学校の先生方が42名参加し「学級経営と週案活用」について

- どのような学級づくりをめざすのか
- 学級崩壊・手のかかる子どもへの対応
- 信頼関係のある学級づくりをめざして

など学級経営をする上で大切なことの講話がありました。参加された先生方からの感想の一部を紹介します。

小: 自分の行動や話し方が子供達には実は伝わっていないのかもかもしれないと感じました。早い段階で知ることができた事がよかったと思いました。本日の講座を参考に今後の授業を進めていきたいと思っています。とても参考になりました。

小: 3月に大学を卒業したばかりだったので、毎日学校現場で分からないことだらけでした。今日の講座の内容の一つが「そうやってやればいいのか!」ととても学ぶことが多い話ばかりでした。特に、教師は子どもたちにどうやって勇気づける発言をしようかという前向きな考えが大切だと知り、これから実行していけるように頑張りたいです。

中: 「学級崩壊」についての話の中で、2、3人の手のかかる生徒への考え方・対応がとても為になりました。その子たちも30人から影響を受けるという、逆の視点での考え方は、ぜひ、参考にしたいです。

中: 今日の講義では「評価するためには必ず指導をしなければならない」という言葉が心に残りました。今の自分もつい机やロッカーのだらしなさだけで、その生徒を評価してしまっていたからです。早速明日から一人一人の状態を把握し、その子に合った指導を心掛けたいと思います。

